

地域活性化 京都府福知山市 「みわ・ダッシュ村」から という「遊び」 77 山本晋也

筆者プロフィール

1968年、京都生まれ。美術大学を卒業して渡米後、京都で現代美術作家として活動しながらオーガニックレストランを経営。食材調達のため畑も始める。結婚して3人の子供を授かったころ、農業生産法人みわ・ダッシュ村の清水三雄と出会い、福知山市の限界集落に移住。廃屋を修繕しながら家族で自給自足を目指す。現在みわ・ダッシュ村副村長。

田植えを終え、蛍の飛び交う季節を迎えた三輪集落
蛍や流星群の美しさは暗闇があるからこそ
おりしもコロナで中断していたイベントを
ようやく開くことができて……

コロナが落ち着き 久々にイベント開催

田 植えが終わって
蛍の季節が
やってきました。

我が家は限界集落の一番に位置して
おり

家の前の道路には

外灯が設置されておらず

外灯の設置されているお隣さんま

で100mと距離があるため

家の電気をつけないと

ほんと真っ暗になります。

なぜ外灯がないのかというと

移住した13年前

市役所の方が訪ねて来られ

小さなお子さんもおられるので

安全を考慮して外灯を設置しまし

よう

とありがたうご提案いただいたの

ですが

その僕たちのことを

思っていただけ

お気持ちだけ頂戴することにして

実際の外灯の設置は

おことわりしました。

せっかくの親切を

おことわりするのは

心苦しいものはあったのですが

外灯というものは時間になれば
必ず点いてしまうので

今日みたいに

蛍がいっぱいという時

電気が点いていると

蛍の光がよく見えなくて

ちよつとしばらく消してほしいな

と思つても

自由に消すことができません。

中秋の名月や流星群が来た時など

も同じです。

世界中どこでも

携帯電話が繋がって

とても便利になりましたが

常に電話が気になって

脳が休まる暇がないなど

物事にはメリットデメリット必ず

あつて

安全性の観点から

暗闇を明るくすることの良さもあ

りますが

それによって失うものもあるとい

うことでしょう。

電波が届かないという価値

暗いという価値

これからとても貴重になっていく

かもしれません。

さて前置きが

ながくなりましたが

今月コロナも落ち着いて来たこと



天候に恵まれイベントは大盛況。



今回のイベントはコーヒーとドーナツ!!
というわけで毎日のように試作中。



丸鶏から作った唐揚げは
とても美味しいと大好評でした。



イベント終わったら息つく暇もなく田植えに突入。
今年からお隣のおじいちゃんの田んぼ
お預かりすることになりました。

もあり
久々にイベントを開催しました。
みなさん
イベントに飢えていたのか
近県から予想以上の来客があり
子たちが用意した食べ物
早々に売り切れ。
僕は
タイムテーブル管理や司会などで
忙しく
指示を出すことが
できませんでしたが
お腹をすかせたお客さんを前に

なんとかしなければと思ったので
しょう
売り切れた唐揚げ用に仕入れた
丸鶏を解体した際にでたモツと
畑にあった大根を使って
急遽モツ煮作り。
冷蔵庫にストックしてあった卵と
ストックしてあった
得意の出汁を使って
だし巻きを作るなど
機転を利かせて急場をしのいでい
たそうです。
その話はイベントが終わって
一緒に後片付けを手伝ってくれて
いたお客さんから聞いたのですが
物事を自分で考えて答えを出し
自分から行動するように
と常々伝えて来た僕からすると
とても嬉しかったですね。
こまでくると
いよいよ
僕の子育ても終わりに近づいてい
るのだと思います。
さみしいようないいような
複雑な気持ちですが
子育てのあとは孫育てというもの
がありますので
チャンスをいただけるのであれば
積極的に参加したいですね。
まあ子たちはいやがるかもしれま
せんが(笑)。